

## シュータン・カーペットクリーニングをお預かりする上での注意事項

1. 絨毯、カーペット類は初洗いの時は、クリーニングする事で特に縮みや風合いの変化が生じます。新品時の風合いには戻らないことをご理解ください。
2. 古いシミ、黄変（黄色く変色する）は症状を薄く改善することは出来ても、完全には取れません。
3. 綿素材の敷物や汚れの多いもの、ドライクリーニング指定（水洗い×）の敷物は、色落ちの可能性があります。そのため、色止め作業をしての処理となるため、汚れ落ちが悪くなります。
4. 食用油・灯油など、油の付いた物は、素材により無理な脱脂処理を余儀なくされるため、縮み、風合い変化が激しくなります。
5. フェルト張りのカーペットなどは、表面のパイル地が抜けないようにボンドで貼り合わせています。このボンドなどの糊類は時間の経過（2～3年）とともに劣化します。劣化するとボンドが剥がれ砂状になりカーペットの下に溜まります。この劣化はクリーニング時に判明しやすいのですが経年劣化とお考えください。
6. カビの発生したものは、繊維が弱っており、クリーニングすることで破れが起こる可能性があります。また、カビを完全に除去することは難しいです。
7. ウール系のお品物は輸入時、すでに虫に食われているものがあり、クリーニングすることでさらに毛抜けが広がる場合があります。
8. 床用ワックスまたは掃除機を使用している場合は、フサ（綿部分）が痛んでいる可能性があり、クリーニングすることで干切れる場合があります。
9. シルク系の物は、水処理（水洗い）が出来ないため、ペットの粗相などによる消臭作業をご依頼の場合、完全には臭いを除去することは出来ません。（シルク系は水洗いすると色落ちと風合いが相当変化します）
10. 消臭作業をした場合でも、臭いは残ることがあります。
11. 中に詰め物（ウレタンフォーム、スポンジ）が入っている敷物類は、使用状況や経時劣化によって、表はきれいでも、詰め物がもろくなっている場合があります、クリーニングすることで、ちぎれたり破れたりする可能性があります。

預かり時すでに日焼けなどによる変色が多く見かけられ、毛並みの方向によっては色ムラとして見える場合があります。 極細の繊維の為、遊び毛が出やすい品物です。